

対談市町名	対談項目	各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
13 多気町	対談項目1 伊勢志摩サミットに伴う多気町の“食”イベントの可能性について	<p>伊勢志摩サミットについて、本町も取り組める可能性のある“食”に関するイベントについて、次のことを申し上げたいと思います。</p> <p>1つ目として、ジュニアサミットについては、県内の高校生が参加者と交流できる機会を可能な限り設定したプランを国へ提案するとされており、日本の伝統、文化、魅力、三重県ならではのテーマにスポットを当てるといった考え方が示されています。サミットの関係者、若しくはサミット参加国等の高校生が来日されるのであれば、これらの人たちと相可高校調理科の生徒たちで、日本の食、三重の食をテーマにしたジュニアサミットができないかと考えています。</p> <p>2つ目として、本町の“食”巡りについて、配偶者プログラムや海外のプレスツアーで、本町にお越しいただいて食のスポットを巡っていただける可能性について伺いたしたいと思います。</p> <p>3つ目として、食材の供給について、サミット参加者、首脳に提供される食事の食材の一部を私たちの町から提供できないかと思っています。</p> <p>多気町は今こういうことをPRしたいということで、「多気の“食”めぐり」というのを提案させてもらっています。これは多気町の食に関し、公のかかわった高校生レストラン、農家レストラン「まめや」など、提案書の中に、対応できる人数や具体的にどんなものができるかをあげていますので、話がありましたら紹介させていただきたいと思います。</p> <p>配偶者プログラムについては、日程にあまり余裕がないということもあり厳しいかなと思いましたが、できればそういう日程の中に多気町を組み込んでいただければという思いで申し上げました。</p> <p>食材については、伊勢いも、柿、ミカン、お茶などがあり、伊勢いも料理、葉膳など他所にないものを多気町で食していただきたい。三重県中南勢の多気には、こんなものがあるということをお県からも発信していただきたいと思っています。</p>	<p>ジュニアサミットについては、そもそも開催するかどうかということをお現在外務省で検討中です。</p> <p>三重県に決まれば、集中討議以外の交流の場面になるべく全県に波及するようにしていきたいと思っており、高校生同士の交流という観点からは、相可高校の生徒たちも何らか交流できるようにしたいという強い思いを持っています。加えて、県のいるところを回ってもらう場合には、100人くらいの高校生を5班くらいに分け、東紀州、中南勢地域、伊勢志摩地域、伊賀、北勢に行くというような分散型の視察、分散交流のような感じでやると県内になるべくたくさん行けるのではないかと考えています。それから、サミット開催後に、ジュニアサミットで他国の高校生と交流した高校生やそれ以外にも含めた高校生による高校生サミットというのをこのサミットの資産として残していきたいと思っています。</p> <p>配偶者プログラムについては、1泊2日、実質は初日の午後、翌日の午前ですので、伊勢志摩地域以外の多くの地域を訪問するのは、物理的に難しいと思っていますが、現地を訪れることができなくても、配偶者の皆さんにその地域のいいものを味わっていただいたり、体験していただけるような工夫をしていきたいと思っています。いずれにしても単なる物見遊山であってはいけないと思っていますので、テーマ性とか、ストーリー性を持たせた形で考えていきたいと思っています。</p> <p>また、海外のプレスツアーについては、20回弱ぐらいやろうと思っています。既にASEAN10か国、中東5か国のプレスにこの8月にも来てもらいました。これからどんどん増えてくると思っていますので、相可高校の食物調理科の取組とか、生徒や先生の取材を通じて発信してもらおうようなプレスツアーなどもぜひ検討していきたいと思っています。</p> <p>食材の供給については、現在、市町を通じて推薦食材を照会させていただいているところです。首脳が食べるものだけでなく、配偶者の皆さんが食べるもの、24時間食料を供給しないといけないメディアセンターに置くもの、あるいは数万人という方々が来られますのでそういう人たちへの弁当の供給とかも含め、様々な食材を供給する場面がありますので、ぜひ県産食材を一品でも多く積極的に提案していきたいと思っていますので、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。</p> <p>町長がおっしゃっていただいたもの以外に私たちが特に注目しているのは、豆腐づくり体験、伊勢いも料理体験、あとは食とか和食に関するワークショップのような、単なる物見遊山みたいなものではなく、体験もの、双方向の交流みたいなものを提案していただいているのは、大変ありがたいと思います。そういう皆さんの様々なご意見、地域ならではのストーリーや隠れたテーマなども教えてもらい、町長から言っていた、他にない唯一のものをというの、大変重要な視点であると思っております。大変心強いご提案をたくさんいただき、実行委員会なども組織しながら議論していこうということも言っていたので、私どももしっかりご提案を受け止めて、1つでも多く実現できるよう頑張っていきたいと思っています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
多気町	対談項目2 (仮称)アクアイグニス多気計画にかかる支援	インフラ整備に係る地方創生予算の国への要望について	<p>アクアイグニス多気の計画についてですが、多分今月末くらいには、新たな計画内容の発表ができると思っています。この計画は民間事業者の計画で、地方創生の中でも民間活力を活用してということが結構言われていると思いますが、町も一生懸命応援をさせてもらっています。議会でも、連結道路の設計予算を町でやっていこうということで認めていただき、これは中南勢地域、紀州地域の地域活性化に期待できる計画ということで、町としても高速道路からの連結により、伊勢からの観光客、紀州からの観光客を誘致しようということで計画を進めております。また、地方への人材の還流や地域の食材の発展的な活用や雇用の対策、U I Jのターン、多くの世代の交流の拠点、地域産業の競争力の強化など、多岐にわたる事業効果が期待されております。</p> <p>この計画の中で、区域内を縦貫する幹線道路につきましては、高速道路連結のための接続条件として、公共道路で整備することが求められております。町の重要観光施設や他地域への重要なアクセスとして大きな役割も持っています。この整備には多大な費用もかかりますので、今回の計画、隣の町も含めた地域の活性化につながるインフラ整備は、人口規模が1万5千人程度の我々のようなところでは、なかなか厳しい部分もあります。町でやるか、もしかしたら県での対応も検討していただけるかもわかりませんが、国のほうでの地方創生事業というのは、ソフト事業がメインであります。これに関わる優先的な事業採択を国に対して要望していただきますようよろしくお願いいたします。</p> <p>アクアイグニス多気の場合、全体の事業計画というのは民間でやりますが、それに接続するような道路などは、やはり我々でやっていかなければならないと思う部分があり、できれば大きいところをお願いしたいと思っていますが、それが難しいようであれば、町でするにしても優先採択ができるようにしていただけるとありがたいと思っています。設計予算については、今町のほうでみており、本体の事業計画がうまくいけば、オリンピックに間に合うようにという形で今進めております。ただし、今、県のほうへ要望しても厳しいなというのはよく分かっていまして、来年サミットで50数億円くらいかかるかわからないと言われていまして、あまり無理なことを言うてはいけません。</p>	<p>来年度に向け、地方創生で国のほうでは新型交付金の議論をしています。全国知事会でも、地方の実情に合わせて自由度の高い柔軟な制度運用になるようお願いをし、ちゃんとした規模を確保してほしいということも申し上げてきましたが、規模については、前回1700億円であったわけですが、それを大きく下回る1000億円くらいという大変残念な結果でした。これから制度設計にあたっては、地方の意見を十分に踏まえるように更に検討してほしいということも地方六団体の声明としても出させていただいておりますし、県単独としても要望させていただいているところで。市町の皆さんとの議論、他県の知事さんたちとの議論の中でも、ソフトを活かすために必要なちょっとしたハード整備とかは認めてほしいというのは、我々も思いますので、地域活性化に資する、その地域の雇用に十分資するという一定のものが見込める場合など限定してでもいいので、新型交付金においては、地域の実情に応じた柔軟な制度運用となるよう、我々も国へしっかり要望していきたいと思っておりますし、新型交付金以外でも国の財源でアクアイグニスの投資や運営などに使えるような国の財源があれば、そういうものの対象となるような働きかけも、多気町さんと一緒になってやっていきたいと思っています。</p> <p>国の社会資本交付金とかを含めて、様々、優先採択とかができるように我々も一緒に働きかけをしていきたいと思っています。私としてはサミットの公共事業の場合は、今回そのサミットのためにやる部分も多少あるものの、基本的にはいつかやらなければならなかったものをこのサミットのタイミングで前倒して公共事業をやるという考え方ですので、そうしないと他の全体にしわ寄せがいつかサミットだけということになってはいけません。そういう公共事業の考え方の中で、商業施設の中の道路や、商業施設ができたことによる連結ということについては、ここ多気町のアクアイグニス多気だけ認めていくというのは、県としては大義が必要になってくると思いますので、いざれにしても、個別の詳細が明らかになってくる中で、どういう財源を探していけばいいのかということをよく多気町さんと連携して、議論をしていければいいと思っていますので、よろしくお願ひします。</p>
多気町	対談項目3 鳥獣被害防止対策について	鳥獣被害防止総合対策協議会補助事業のメニューへの避妊治療費の追加について	<p>鳥獣被害の防止対策につきまして、鳥獣被害の総合対策協議会、補助事業の中で、獣害対策として、サル習性を利用し、若いメスが捕獲されたときに、群れの位置がわかるように発信機を装着して逃がしています。それと同時に群れの個体数が増えないように避妊治療も施したいので、避妊治療費も補助のメニューに加えていただきたい。</p>	<p>避妊治療費の追加の関係ですが、伊賀市でICTを活用したニホンザルの大量捕獲の実証実験みたいなものをさせていただき、これが効果があるようです。ぜひ大量捕獲、ICTを活用した大量捕獲などにもチャレンジしていただき、我々もそういう支援もさせていただければと思っています。一方で、避妊については、避妊効果の期間が不明瞭であるということや、外科的処置を現場で行うことがなかなか対応が難しく、処置に時間がかかると放獣後群れに戻れなくなる可能性が高くなるなど結構課題が多い。言わば費用対効果が見えにくいという部分があり、避妊措置というのは課題が大きいと思っていますので、先ほど申し上げたようなICTを活用した大量捕獲で、この効果をあげていくのがいいのかなと思っています。</p>

対談市町名	対談項目		各市町長の主な発言内容	知事の発言内容
多気町	対談項目3 鳥獣被害防止対策について	野生鳥獣生息環境創出事業「里中と山林との緩衝帯設置による伐採」の継続実施について	<p>里中に接する山林を伐採し里中と山林の距離を離すことにより、獣の隠れ家を失くし里中に近づけないようにする、野生鳥獣の生息環境創出事業を、昨年度事業を採択していただき非常に獣害対策として効果が出ています。今年度も実施していただく予定ですが、来年度からこの事業が廃止になるような話を聞かせていただきました。ぜひ廃止をせずに継続をいただき、事業としての採択をお願いしたい。</p>	<p>里中と山林との緩衝帯設置による伐採の継続ですが、県としても市町でこの事業使っていたら、一定の成果があったというように思っています。一方で、平成24年度から、27年度までということやってきた事業であり、今後の予算編成の中で議論していきたいと思いますが、基本的には、4年間のみの事業という形の中でやってまいりましたので、他の国の鳥獣被害防止総合対策交付金などでも鳥獣被害防止の取組を支援できますので、そういうのを活用するなど、厳しい財政状況の中でも、平成28年度予算に向けて議論をしていきたいと思っています。また県の場合、全般的に今回行動計画の見直しが入りますので、重点取組や、そういうものの考え方を整理することになり、獣害対策は今まで緊急課題解決プロジェクトに入れてあったわけですが、これまでの成果なども踏まえて、優先順位をつけた形で事業構築していきたいと思っています。</p>
多気町	対談項目3 鳥獣被害防止対策について	バイオマス発電用の資源集積に対する支援について	<p>本町はこの9月からバイオマス発電所向けのチップの確保のために、地域住民などから木材や竹材の集積を町の事業として始めています。これも里山保全と獣害対策を目的としています。当面は資源収集の買取に対して、独自の補助を行っており、この事業に対しても県として支援いただくようお願いします。</p> <p>獣害については、本当に農家の方が作った作物をみなやられてしまう。こんな悔しい思いをしているのは町の人にはわからない。何とかいい方法ができればということで、バイオマスの特に竹藪というのが、多気町の集落の近くまでいっぱい来ますので、それを地元の人に切ってもらい、少しでも里山を広げて、獣を山へ送るようということで、自分たちの集落の竹や木を切り、バイオマスの発電所の材料、チップにしようということで、協力してくれています。獣害は本当に深刻な問題だと思いますので、こういう助成事業につきましても、また何かの形で応援をしていただければありがたいと思います。</p>	<p>バイオマス用の資源集積について、地域住民の方が伐採した木材や竹材の買取を町独自で補助をしているというのは、大変有意義な取組であるというように思っています。我々もこのチップの供給については、非常に重要な点だと思っていますので、しっかり連携して取組んでいきたいと思いますが、既に津市や名張市では、森と緑の県民税の市町交付金を活用して、木質バイオマスの搬出などの支援をされていますので、こういうものの活用もご検討いただくとよりバージョンアップしていいのではないかと思います。いずれにしても獣害対策は効果があるものとそうでないものや、なかなか効果が見えにくいものなど様々ありますので、事業についてはよく精査をする中で次年度の取組を検討していきたいと思っています。</p> <p>農家の皆さんの深刻な部分については、私たちもそう思っています。獣害対策課という名前の課は高知県とうちにしかありませんので、獣害対策を専門にやる部署を設置してやらせていただいています。この5年の取り組みの中で、侵入防止柵などの延長もだいぶ広がってきて、その効果のある面積も広がってきているのですが、一方で、被害額は減っているのですが被害件数は増えているというようなことがあり、これは侵入防止柵とかが届かない小規模な農家の人たちのところに、その獣害の被害が及んでいる状況だと思っています。そういう現状も踏まえた中で、どう対応していくかというようなことも含めて、町独自のそういう竹の伐採などでの取組なども応援させていただきながら、獣害対策にしっかり取り組んでいきたいと思っています。</p>